

おじやまします！

地域の特色を活かし自律的で持続可能な社会の形成が求められています。本所では、「京で働き、京で暮らす」を合言葉に京都創生の実現を目指しています。今回は、京都ブランドである食と伝統工芸を「縁の下」で支える2社に訪問しました。

日本のだし文化を世界に発信

福島鯉株式会社

代表者/宇田 弘
住 所/京都市中京区堺町通御池上ル扇屋町
TEL/ 075-211-2940
URL/ <http://www.fukusima-k.co.jp>
事業内容/削鯉節の製造・卸、業務用食品の卸

だしの素材についてご説明を伺いました



50年・100年後を見据えた文化財修復

株式会社宇佐美松鶴堂

代表者/宇佐美 直八
住 所/京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町98
TEL/ 075-371-1593
URL/ <http://www.usami-shokakudo.co.jp>
事業内容/文化財(絵画書蹟、染織)の修復及び表具の仕立て

「古糊」のご説明を伺いました



福島鯉は、愛媛出身の福島明一郎が大正11年に創業。翌年には実弟の龍助(前々会長)が上京、兄弟で削り節を中心に商いを始めました。当時は乾物屋がシェアを握り、後発でありましたが、持ち前の営業力や産地からの直接仕入れで差別化を図り、顧客の信頼を重ねてきました。戦中・戦後の混乱期を経て、昭和25年に法人化。同業他社に先駆けて「業務用だし」に商品の特化し、大手の追従を許さず、トップシェアを誇っています。同社の強みは提案力。「だしを知りつくした社員が、顧客やメニューごとに魚や昆布などの素材のブレンドを提案。近年は魚介だしブームによりラーメン店での需要が伸びています」と宇田社長は語ります。最近では、日本食ブームに沸く海外での需要が旺盛となっています。宇田社長は、「4年前に手探りで海外に販路を求め、一昨年、アメリカに現地法人を設立。現在は15カ国とお取引をしています」と、手応えを感じています。

株式会社宇佐美松鶴堂は、天明年間に初代・宇佐美直八が本願寺ご用達の表具屋として創業。当代で9代目、230余年の歴史を有し、掛け軸・襖絵等の障壁画・古文書等、国宝や重要文化財を含む、幅広い文化財の修復を取り扱われています。同社の「保存と修理」は、伝統に固執せず、連綿と受け継がれる技を引き継ぎながら先端技術も取り入れ、文化財の劣化を抑え、本来の姿を少しでも長く維持していくことにあります。表具に大切なものは、糊、和紙、裂地。中でも年に一度製造する「古糊」は同社の財産ともいえる商売道具です。「糊を10年寝かせることで、本来の接着力が落ち、柔らかく仕上がりますし、再修理も可能です。50年、100年後を見据えた補修をしていかなければならない」と宇佐美社長は語ります。日本の伝統技術は海外からも注目を集め、50名を超える外国人が同社で修業を積み、アメリカ・ボストン美術館をはじめ、各国の博物館で文化財補修に活躍しています。

会頭のひとこと

国内外の人々を魅了する和食や文化財。華やかな舞台の裏で、これらを支え続ける人々の想いや技に感銘を受けた。今回訪問した2社は、歴史・伝統・文化の中で育まれた先人の知恵を受け継ぎ、京都ならではの特色を活かした「知恵ビジネス」企業と言える。国内外への「京都ブランド」の発信に更なる活躍を期待したい。